Vo.2

和而不同

日常を覆う〝コロナ禍〟の話題が生み出す閉塞感の中、未だ厳しい世情が続いている。一方ふと見れば、草花が次々と芽吹き、虫たちの活動も始まった。先が見えない時ほど、時の流れを身近なところで気づいていくこともまた大切であろう▼本来であれば今の時期はいわゆる〝新学期〟、学生に限らず人の「コミュニティ」が再構築される機会も多い▼これまでいつも通りであったことが急に当たり前で無くなってしまう状況は、いかなる場面であっても素直には受け入れがたいものだ▼そして実際に変化に直面するまではその大切さになかなか気づくことができないのも人間の性であろう。今の「あたりまえ」がこの先も続くかどうか、実はその保証はどこにもない。娑婆の世界は大変厳しいものだ▼しかし、こうした感覚すら乏しくさせてしまう現状がまさに今日である。世間に蠢く〝コロナ禍〟模様によっていつの間にか心のアンテナが蝕まれてはいないだろうか▼感性の欠如は思いもよらぬ言動や行動を生み、そこでは往々にして責任が放棄されがちだ。いわゆる〝ソーシャルディスタンス〟が謳われる中、変化に対する〝嗅覚〟と実感、そして肚の坐りを身近な生き物をきっかけに味わうことも貴重な機会であろう〔徳〕

先月号より『和而不同』を掲載させていただいております。皆さまくれぐれもお身体ご自愛くださいませ。(若院)